２０２１年度全国科学館連携協議会第２回東北ブロック会議報告書

・報告日：２０２２年３月２４日
・報告者：盛岡市子ども科学館
佐々木　瑞穂

日　程	２０２２年2月２５日（金） １４時-１６時	目的	全国科学館連携協議会の目的に照らし、東北地域における科学技術普及の拠点である各科学館の連携促進を図る。
事務局	盛岡市子ども科学館		

１　会議名
　２０２１年度全国科学館連携協議会第２回東北ブロック会議
２　実施形態
　オンライン会議
３　参加状況
（１）オンライン会議への出席（12館　１６名）
奥州宇宙遊学館，スリーエム仙台市科学館，仙台市天文台，むつ科学技術館，山形県産業科学館，郡山市ふれあい科学館，田中館愛橘記念科学館，久慈地下水族科学館もぐらんぴあ，自然科学学習館，フェライト子ども科学館，盛岡市子ども科学館，連携協事務局
（２）情報交換テーマ（議題）への事前回答（１５館）
秋田県児童会館，エネルギー館あしたをおもう森，奥州宇宙遊学館，郡山市ふれあい科学館，自然科学学習館，スリーエム仙台市科学館，仙台市天文台，TDK 歴史みらい館，田中館愛橘記念科学館，八戸市視聴覚センター・児童科学館，フェライト子ども科学館，むつ科学技術館，久慈地下水族科学館もぐらんぴあ，盛岡市子ども科学館，山形県産業科学館

４　会議の概要　※以下，敬称略
加盟館へ議題案（情報交換テーマ）を募り，事前に回答いただき，それを基に協議・情報交換を行った。主な内容は以下の通り。
（１）あいさつ
幹事館の盛岡市子ども科学館の浪岡潤一館長から，開催にあたり挨拶があった。
（２）２０２１年度第１回東北ブロック会議報告
第１回の会議が中止となった旨，幹事館のスリーエム仙台市科学館石川由紀夫館長より報告があった。
（３）各館の活動報告と情報交換
ABCD の 4 グループで活動報告やテーマに関わって情報交換を行い，その後内容を全体で共有した。
＜テーマ１＞コロナ対応の科学館運営を終了するタイミング
＜テーマ２＞ブロック会議の開催方法について
＜テーマ３＞with コロナ対応について
＜テーマ４＞ウィズコロナ時代における集客対策等について
＜テーマ５＞各館のコロナ過における特徴的な取り組み
＜テーマ６＞コロナ禍での感染対策について

①グループ討議内容の共有
A グループ：仙台市科学館（石川），奥州宇宙遊学館（花田），奥州宇宙遊学館（斎藤）
・ブロック会議は広い部屋でディスタンス保ちながらなど工夫して直接会って開催できればいいのではないか。
・実演型研修は参集が難しい場合でも，各館で作成して公開している動画コンテンツにリンクをはるなど各館の実践を共有できればいい。

B グループ：仙台市天文台（小野寺），むつ科学技術館（山火），山形県産業科学館（宮野）
・テーマ 1,3,6 については，このグループではコロナの対応も設置者である自治体と相談しながら進めたことを確認。
・実演型研修については，東北が広いので参集が難しい場合，ライブ配信や動画配信での参加を併用できるといい。
・テーマ 4 については，むつ科学技術館の取り組みで，対象を限定（むつ市の子どもたち）して集客する取り組みをしているのが特徴的。
・テーマ５について，山形では，科学の祭典に Web で申込した参加者に材料を郵送し，YouTube 視聴で作成してもらうという取組をした。むつでは，同じ内容のものを午前と午後に分けて 2 回実施し，間に消毒等感染症対策を実施した。電話申し込みにして事前に参加者の情報が得られたことも感染症対策となった。仙台では，望遠鏡を覗く活動で目からの感染防止策として，個別に透明シートを配布した。

Ｃグループ：郡山市ふれあい科学館（梅本），田中館愛橘記念科学館（冬川），久慈地下水族科学館もぐらんぴあ（大内田）

・テーマ１について，自治体から積極的な指示がなかなか出てこないところが難しい。各館で判断を検討し，それを自治体に相談しながら進めるという形だった。
・テーマ２について，実演型研修は実際に顔を合わせて実演を見ることが代えがたい機会なので参集がよい。ただし報告内容のみであればオンラインでも可能ではないか。
・テーマ３について，子どもの感染が増加傾向にあり対策は必要だが，なかなかこれはという対策を出せないでいる。
・テーマ４について，プラネタリウム解説や実験工作の動画を流していることや，入館者カードの住所情報を来場者の動向分析に活用している事例が出された。
・テーマ５について，久慈では該当時期に補助事業として朝ドラと連携した取り組みを行った。

Ｄグループ：フェライト子ども科学館（佐々木），自然科学学習館（工藤），盛岡市子ども科学館（浪岡）

・テーマ１について，自治体運営の自然科学学習館とフェライトは現在休館中。指定管理者の盛岡は，施設の判断を自治体に相談するイメージ。
・テーマ２については，３館とも実演の研修は現地に集まって行うスタイルを続けた方がいいという意見。定期的な転勤で実務担当者が入れ替わるため，しっかりとした研修の場として大変貴重で有効。情報交換はオンライン開催でもいいのではないかと考える。
・テーマ３については，自治体の指示に従っての運営となる。
・テーマ４については，盛岡と自然科学館は通常時と比較し４割程度の入館状況。フェライトは通常の１-２割程度の入館。できる範囲での集客となる。
・テーマ５については，代替のイベントをフェライトはサイエンスショーの代わりにリモートでの実験教室を行った。盛岡では，動画配信や代替企画のホリデーサイエンス（定員減）を実施している。
・テーマ６については，予約を受けても実際休館となってしまうこともあり，その際の相手へのお知らせの連絡は苦痛を伴うものとなっていることも出された。

②次年度の会議の持ち方について

以下の観点で会議の持ち方の方向性を確認し，感染状況等社会的状況を踏まえ検討していくこととした。

・実演研修会については，できればオンラインはなく実地研修の希望が多いこと
・加盟館の情報交換や館長・施設長会議の内容は，オンラインでも可能
・目的が異なる実演研修会と館長会議は，時期を分けず同日開催でもいいのではないか

③次年度の予定について

開催時期は11月以降～年度の後半，年１回にまとめて開催する

（４）会議の総括

幹事館　スリーエム仙台市科学館　館長　石川由紀夫

・収束の兆しがあるようにみえたが，まだまだ先行き不透明な状況での運営を余儀なくされる状況だが，少しでも好転し皆さんが笑顔で会えるのが一番いい。一所懸命工夫を凝らしながらやっていきたい。何かありましたらこうした仲間内でお互い質問意見を交わしながら東北ブロックで発展していきたい。

（５）その他

通信状況に不安があり，全体ではビデオOFF状況にご協力いただいての会議運営だったが，連携協　事務局　原様よりご提案いただき，最後にビデオをONにして対面して会議終了。

以上